

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コラソン（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からこどもの状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達状況について共通理解ができている	その日の健康状況を連絡帳で共有し合ったり、事業所での様子はもちろん、服用している薬や持病による変わった様子がないかを細かく送迎時に伝えるようにしている。 また、活動の様子を踏まえ、得意なことや苦手なことを話し合い、事業所と保護者との理解を擦り合わせるようにしている。	進級・進学などで環境が変わったり、普段とは違った様子が多く見られるようになった時に、送迎時での情報共有だけではなく、個別での面談などを提案し、リアルタイムで児童について共通理解を深められるように努める。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されている。	保護者へのアセスメントはもちろん、事業所内で会議を実施し、日ごろから細かく児童の様子を共有したり、支援方針について話し合うようにしている。 また、保護者から個別で面談の申し入れがあった場合は機会を設け、都度、保護者と児童のニーズや課題を捉えられるように努めている。	事業所と保護者間のやり取りで終わるのではなく、ケース会議などを通じて、学校やその他に利用しているデイサービスにも情報共有を行い、関係機関が足並みを揃えた状態で児童に支援を行っていく。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	普段から行っているお買い物活動や公園活動でも、行き先が偏らないように気を付けたり、児童からのリクエストに応えるようにしている。 また、遠方に外出するイベントに関しても、児童のリクエストを聞いたり、他事業所の取り組みを参考にして取り入れている。	子どもが活動を計画し、実行していく「子どもプログラム」という活動を独自に行っている。プログラムに参加するといった受動的な体験だけではなく、プログラムと一緒に作っていくという能動的な体験も提供できるように、引き続き「子どもプログラム」の実施に取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の機会が少ない。	児童との関わりで悩んでいる保護者から個別で相談を受け、家庭での支援方法などを一緒に考える機会はあるが、事業所側から、利用者全員に広く声をかけることは少ない。	家庭の都合や進級・進学などで環境が変わったり、普段とは変わった様子が見られるようになってきた児童については、事業所側から保護者の困りごとなどを聞き出し、家族支援に繋げられるように努める。
2	保護者同士の交流等の機会提供が不足している。	個別で面談を行うことが多く、事業所と保護者の一対一のやり取りが多い。	複数名の方を招いて合同での面談を実施したり、保護者が参加できるプログラムを企画することで交流する機会を提供できるように努める。
3	地域の他のこどもとの交流について伝える工夫が足りない	前年度の改善点を踏まえ、地域で行われているイベント（福祉フェスなど）に参加したり、農福連携の公共施設に赴き、そこで地域の子どもたちと交流をする機会を持つことは出来ているが、保護者への発信が足りない。	個別面談や送迎時に、地域の他のこどもたちとの交流について細かく共有したり、地域イベントへの参加や公共施設での活動を行った時には、ホームページ上のブログなどを活用して、その時の詳しい様子を発信できるように内容を精査していく。